AI・データ科学に関する演習

ランダムフォレストを使った 各都道府県の住宅戸数の予測

演習の概要

◆ この演習では、e-Statから得た都道府県別の人口、面積と地価から住宅戸数を予測するモデルを作成し、このモデルを使って実際に住宅戸数を予測します。このような問題は回帰問題と呼ばれます。

◆ この演習では,回帰問題の分析方法として機械学習法の一つであるランダムフォレストを使います.

◆ ランダムフォレストによる予測結果をExcelの(重)回帰分析による結果と比較します





1. 各自のPCにデータとソースコードをダウンロード

- 2. デスクトップにフォルダ作成、データと ソースコード(プログラム)を移動(コピー)
- 3. Spyder (Python 3.8)の起動
- 4. ランダムフォレストプログラムの実行
- 5. ランダムフォレストによる予測結果の整理
- 6. Excelを用いた重回帰分析による予測結果と比較

※各自のPCのOSはWindows10であり、Anaconda3(64-bit)がインストールされているものとする

1. 各自のPCにデータとソースコードをダウンロード

分析に用いるデータ(csv形式)とソースコードをPCにダウンロード

 	С.				- 0	×
ファイル ホーム 共有 表示					1	?
	移動先 コピー先 削除	 ・ 	新しいアイテム マ ショートカット マ プロパ マ	↓ 開く ▼ ティ / 編集 を履歴	 ■ すべて選択 ■ 選択解除 ■ 選択の切り替え 	
クリップボード	整理	新	規	開く	選択	
← → • ↑ ↓ > PC > ダウンロード			v ت		ードの検索	
 ◆ ★ クイック アクセス ▲ 名前 ◇ 昨日 (1) 		▼ 更新日時	種類	51	ĬŹ	^
↓ ダウンロード		2020/11/17 22:40	DOC ファイル		84 KB	
 ■ ドキュメント ★ ✓ 先週 (4) ■ ピクチャ ★ ■ Estat_B ■ residuals 		2020/11/11 9:06 2020/11/11 9:05	Microsoft Exce PNG ファイル	el ワーク	13 KB 15 KB	
RF_for_Esta		2020/11/11 9:05	PY ファイル		3 KB	
🖾 Estat_B		2020/11/11 9:05	Microsoft Exce	el CSV	2 KB	
→ 今月に入って (先週は含めず)	(1)	2020/11/01 22:23	Microsoft Exce	el 7-7	19 KB	

①「Estat_B.csv」:入力データ

②「RF_for_Esta.py」: ランダムフォレストのプログラム

2. デスクトップへのフォルダ作成

各自のPCのデスクトップで右クリックし、「新規作成」→「フォルダー」をクリック



2. デスクトップへのフォルダ作成

デスクトップ上に「新しいフォルダー」が作成されるので「Python_dir」と名前を付ける



2. デスクトップへのフォルダ作成

「Python_dir」を開き、入力データとソースコード(プログラム)をコピー(移動)



入力データの内容

✓「Estat_B.csv」をダブルクリック ✓Excelで開くことができる



入力データの内容

都道府県番号について

	A	В	C	D	E	F	G	H
1			人口(人)	面積(km ²)	地価(円/m ²)	住宅数(戸)		
2	1	北海道	5722908	83424.31	18,000	2416700		
3	2	青森県	1307942	9645.59	16,700	501500		
4	3	岩手県	1280046	15275.01	24,500	483600		
5	4	宮城県	2333952	7282.22	34,000	953600		
6	5	秋田県	1022940	11637.54	14,200	383800		
7	6	山形県	1123440	9323.15	19,200	393200		
8	7	福島県	1914561	13783.74	22,500	731100		
9	8	茨城県	2916834	6097.06	32,800	1126600		
10	9	栃木県	1974333	6408.09	33,200	761400		
11	10	群馬県	1972943	6362.28	30,700	786600		
12	11	埼玉県	7266615	3797.75	105,400	3023300		
13	12	千葉県	6222705	5157.65	71,500	2635200		
14	13	東京都	13515190	2190.93	323,800	6805500		
15	14	神奈川県	9126281	2415.83	173,700	4000000		
16	15	新潟県	2304149	12584.1	26,500	844300		
17	16	富山県	1066150	4247.61	30,500	390900		
18	17	石川県	1154105	4186.09	41,600	455000		
19	18	福井県	786555	4190.49	31,500	279300		
20	19	山梨県	835005	4465.27	25,900	329200		
21	20	長野県	2099329	13561.56	25,500	806600		
22	21	岐阜県	2031853	10621.29	33,800	750300		
23	22	静岡県	3700496	7777.42	66,700	1425100		
24	23	愛知県	7483027	5172.48	97,900	3069200		

	A	B	С	D	E	F	G	Н
25	24	三重県	1816049	5774.4	31,200	720000		
26	25	滋賀県	1412912.546	4017.38	46,400	543000		
27	26	京都府	2610499.54	4612.19	102,400	1158900		
28	27	大阪府	8839468.572	1905.14	146,900	3949600		
29	28	兵庫県	5534552.448	8400.96	100,700	2308700		
30	29	奈良県	1364171.424	3690.94	52,600	529000		
31	30	和歌山県	963364.291	4724.69	34,700	383900		
32	31	鳥取県	573402.675	3507.05	20,100	215600		
33	32	島根県	694302.84	6708.24	22,100	264700		
34	33	岡山県	1921626.45	7114.5	29,200	771100		
35	34	広島県	2844007.53	8479.45	51,900	1208800		
36	35	山口県	1404606.54	6112.3	25,600	591000		
37	36	徳島県	755934.295	4146.65	30,400	305300		
38	37	香川県	976269.744	1876.72	33,100	397600		
39	38	愛媛県	1385538.451	5676.11	37,900	581400		
40	39	高知県	728152.825	7103.93	31,500	315400		
41	40	福岡県	5101585.84	4986.4	44,600	2239000		
42	41	佐賀県	832760.016	2440.68	20,200	300300		
43	42	長崎県	1377225.597	4132.09	23,600	555200		
44	43	熊本県	1786394.285	7409.35	27,800	698100		
45	44	大分県	1166056.569	6340.71	24,800	481800		
46	45	宮崎県	1103828.737	7735.31	24,600	460200		
47	46	鹿児島県	1648137.036	9186.94	27,900	709000		
48	47	沖縄県	1433455.808	2281.12	45,700	577000		
10								

Oプログラムの内容





#平均二乗誤差

from sklearn.metrics import mean_squared_error

print('MSE train : %.3f, test : $\overline{$ %.3f' % (mean_squared_error(y_train, y_train_pred), mean_squared_error(y_test, y_test_pred)))

R^2の計算

```
from sklearn.metrics import r2 score
print('MSE train : %.3f. test : %.3f' % (r2 score(y train, y train pred), r2 score(y test, y test pred)) )
#print(y train pred. y train pred - y train)
#print()
#print(y test pred, y test pred - y test)
#print()
#残差のプロット
plt.figure(figsize = (10, 7))
plt.scatter(y_train_pred, y_train_pred - y_train, c = 'blue', marker = 'o', s = 35, alpha = 0.5, label = 'Training data')
plt.scatter(y_test_pred, y_test_pred - y_test, c = 'red', marker = 's', s = 35, alpha = 0.7, label = 'Test data')
plt.xlabel('Predicted values')
plt.ylabel('Residuals')
plt.legend(loc = 'upper left')
plt.hlines(y = 0, xmin = 0, xmax = 6000000, lw = 2, color = 'green')
plt.xlim([0, 6000000])
plt.show()
train predicted = []
test predicted = []
                                                残差と住宅戸数の予測値の関係を表すグラフの設定
train predicted.append(y train pred)
test predicted.append(y test pred)
                                                          訓練データとテストデータを用いた予測値を変数
train predicted np = np.array(train predicted)
                                                         train predicted npとtest predicted npにコピー
test predicted np = np.array(test predicted)
df = pd.DataFrame(train predicted np)
df = df.T
df.to csv('y train pred.csv')
                                                             変数の値をcsvファイルへ書き出し
df = pd.DataFrame(test predicted np)
df = df.T
df.to csv('y test pred.csv')
```

3. Spyder (Python3.8)の起動

Windowsキーを押し、Anaconda3(64-bit)をクリック、Spyderを起動







Spyderを起動すると以下のような画面が表示される



画面左上(Open file)をクリックして、ファイルの一覧から「RF_for_Esta.py」を選択

Open fileボタン

😵 Spyde	er (Fython 3.8)	~	々苦	^	百年口中		
File Edit	Search Source Run Debug Consoles Projects Tools View Help	:	石 則 一		史利口时		
🗅 🗁			br_degrade Image: SM400				
C:¥Users ³	¥kenta¥.spyder-py3¥temp.py		dim reduce				
🗖 temp			Estat B				
1	# -*- coding: utf-8 -*-		RF_for_Esta				
2	Spyder Editor		🔊 SM400data				
4			🔊 SMdata				
5	This is a temporary script file.		sta_fndmtls				
6 7			sta_kmeans				
			stat_result_SM400				
			y_test_pred				
		×	<			:	>
		イル名	G(N): RF_for_Esta	×	Supported text files	,	×.
					開く(O)	キャンセル	

Spyder上に読み込んだコードが表示される



画面左上(Run file)をクリック、画面右下にコンソールが表示される



画面右上(Plots)をクリック、プログラム結果の表示



プロットを保存したい場合はグラフ上で右クリック, (Save plot as..)を選択



5. 計算結果の整理

人口、面積、地価と建物の数には強い相関があることがわかる



※学習に使用する訓練データと検証に使用するテストデータの分割が毎回異なるため, ランダムフォレスト による分析結果も, 実行するごとに変わります.

◆ Excelで重回帰分析を行うために,準備をします

以下の順でクリック ①「ファイル」メニュー ②その他

③オプション

④アドイン

⑤Excelアドイン

⑥設定

\odot	おはようござい	全般	Microsoft Office のアドインの表示と管理を行いま	च.
⋒ ≭−⊿	~ 新規	文章校正	የተን	
□ 新規		保存	名前 ^	場所
		言語 簡単操作	アクティブなアプリケーション アドイン 分析ツール	C:¥yb3d8bbwe¥Office16¥Library¥Analysis¥ANALY
	4 5 6 7	詳細設定 リボンのユーザー設定	アクティブでないアプリケーション アドイン Euro Currency Tools Microsoft Actions Pane 3	C:¥8wekyb3d8bbwe¥Office16¥Library¥EUROTOC
上書き保存	空白のブ	クイック アクセス ツール バー アドイン	Microsoft Power Map for Excel ソルバー アドイン 日付 (XML)	C:#NS#Power Map Excer Add-In#EXCELPLOGINSH C:¥kyb3d8bbwe¥Office16¥Library¥SOLVER¥SOLVI C:¥ommonX86¥Microsoft Shared¥Smart Tag¥MOI
名前を付けて保 存	(4	トラストセンター	 ・分析ツール - VBA ドキュメント関連アドイン 	C:¥3d8bbwe¥Office16¥Library¥Analysis¥ATPVBAE
	最近使ったアイテ		ドキュメント関連アドインはありません 無効なアプリケーション アドイン	
印刷	□ 名前		無効なアプリケーション アドインはありません	
共有	回帰分: ドキュメント		アドイン: 分析ツール 発行者: Microsoft Corporation	
エクスポート	□ □ 帰分:		互換性: 互換性に関する情報はありません 場所: C:¥Program Files¥WindowsApps¥Micross Office16¥Librap XApply isXANALXS22 XI	oft.Office.Desktop.Excel_16051.13328.20292.0_neutral_language
発行	「「「「」「「」」「「」」「」」「「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「		説明: 統計学的および工学的分析を行うためのデータ分	 う析ヅールです
閉じる	経済セン デスクトップ			
その他	アカウント		B-±(<u>∩</u>). Excerption axe(<u>S</u>)	
	フィードバック			ОК
	x75ax (3)			



⑦分析ツールにチェックを入れる (8)OK

(「アドイン」の画面で,既に「分析ツール」に チェックが入っている場合は,「キャンセル」ボタ ンをクリックし,「ホーム」画面に戻る)

◆準備ができたら,実際に重回帰分析を行います

- 以下の順でクリック
- ①データ
- ②データ分析
- ③回帰分析
- (4)OK

日 ち・ ファイル ヌ	♂ - = ホーム 挿入	ページレイアウ	うト 数式	データ	校問 表示	≂ 開発	へルプ (回帰分析.:	xlsx - Excel すか				T _A		竜生 🎴		- «
● 外部データの 取り込み *	「 新しい クエリー こ 最近 取得と	リの表示 ・ブルから 近使ったソース 変換	「 すべて 更新 ~ □ 接	接続 九(「 1 」 リンク 続	£↓ <mark>⊼ २</mark> ∡↓ 並べ替え ش	え フィルター 2べ替えとフィル	く クリア つ 再適用 ・詳細設定 7-	- 区切り位置		フィル]除 入力規則 マ ² ータッール	⊪•º 統合 ¤∰ リレーションシッ	プ Wha	t-If分析 予測 * シート 予測	 ・回 グル ・グ グル ・E 小書 ・ア: 	,ープ化 ▼ ,ープ解除 ▼ †)トライン	ta ta ta ta ta ta ta ta ta ta ta ta ta t	-9分析 析
A1	▼ E ×	$\checkmark f_x$	2015														
A	В	С	D	Е	F	G	н	1	J	K	L	М	N	0	Р	Q	F
1 2	015	人口(人)	面積(km2)	地価(円/m	2)	住宅数(戸)											
2 データ分1 3 分析ダー 4 分析ダー 5 杉参取子 6 月後位と 7 シ検定と 9 t検検定	- レ に	5700000 る平均の検定 た 2 標本によるれ と仮定した 2 標	<u>02424 21</u> 検定 本による検定	4	?	<pre>116700 301500 83600 353600 383800 393200 731100 .26600</pre>											
10 2 使正	: 2標本による平均	1070010	0000.00	~]	61400											
11	村 あ 県	1972943	0302.28	30,700		786600											
12		6222705	5191.15	71 500		3023300							-				
13	下来示	12515100	2100.02	222 800		2035200					_						
14	宋示即 抽去川順	0126201	2190.95	172 700		4000000											
15	中示川宗	2204140	12504 1	26 500		4000000											
17	利い何示	1066150	12004.1	20,500		300000											
19	田山宗	115/105	4247.01	41 600		455000											
10	Sheet1	回帰分析	(+)	41,000		455000					E [4]				l.		
20													成表示設定	Ħ	e p		

- 「回帰分析」ウインドウ内で以下の順で操作
- ⑤「入力Y範囲」内でクリック
- ⑥目的変数(住宅数)のG列の数値を全てドラッ グして選択
- ⑦「入力X範囲」内でクリック
- ⑧説明変数(人口,面積,地価)のC~E列の数 値を全てドラッグして選択
- ⑨「OK」ボタンをクリック

回帰分析		(9) ×
入力元 入力 Y 範囲(<u>Y</u>): 入力 X 範囲(<u>X</u>):	± (7)	OK キャンセル
□ ラヘンレ(<u>L)</u> □ 有意水準(<u>0</u>)	□ 定数に 0 を使用(<u>Z</u>) 95 %	へルブ(<u>H</u>)
 出力オプション 一覧の出力先(<u>S</u>): ● 新規ワークシート(<u>P</u>): ○ 新規ブック(<u>W</u>) 残差 		

	∂ • د +-	}- - /. (∰1)	両痔	1/11/西			住宅	
ノディル	<u></u>	ム弾入	山傾	고만1四	,,,	12.0		র ন্যান্থ
小部デー 取り込み	」 // タの 新 テ▼ //		原因と いる	なって 変数	辛続 コパティ ックの編集	2↓ 2↓ 1	原因を受した結果	けて発生 果の変数
G2		• : ×	⑧(訪	胡変	数)		⑥(目的	匀変数)
	Α	В	C	D	E	F	G	H
1	2015	;	人口(人)	面積(km2)	地価(円/m	2)	住宅数(戸)	回帰分析
2		北海道	5722908	83424.31	18,000		2416700	\$G\$2:\$G\$4
3		青森県	1307942	9645.59	16,700		501500	
4		岩手県	1280046	15275.01	24,500		483600	
5		宮城県	2333952	7282.22	34,000		953600	
6		秋田県	1022940	11637.54	14,200		383800	
7		山形県	1123440	9323.15	19,200		393200	
8		福島県	1914561	13783.74	22,500		731100	
9		茨城県	2916834	6097.06	32,800		1126600	
10		栃木県	1974333	6408.09	33,200		761400	
11		群馬県	1972943	6362.28	30,700		786600	
12		埼玉県	7266615	3797.75	105,400		3023300	
13		千葉県	6222705	5157.65	71,500		2635200	
14		東京都	13515190	2190.93	323,800		6805500	
15		神奈川県	9126281	2415.83	173,700		4000000	
16		新潟県	2304149	12584.1	26,500		844300	
17		富山県	1066150	4247.61	30,500		390900	
18		石川県	1154105	4186.09	41,600		455000	
-	E.	Sheet1	回帰分析	+				

◆新たにワークシートが作成され、以下のような重回帰分析結果が表示されます

回帰統計			
重相関 R 0.997919	>		
重決定 R2 0.995843	\rightarrow	1に近いほど強い正の相関	
補正 R2 0.995553	5]		
標準誤差 85493.92			
観測数 47			

分散分析表

	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	3	7.53E+13	2.51E+13	3433.342	3.39E-53
残差	43	3.14E+11	7.31E+09		
合計	46	7.56E+13			

5%未満なので有意性がある. (有意水準5%の場合)

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0% <u>.</u>	上限 95.0%
切片	-162346	20593.27	-7.88345	6.94E-10	203876	-120816	-203876	-120816
人口	0.385045	0.011885	32.3978	7.65E-32	0.361076	0.409013	0.361076	0.409013
面積	3.422059	1.317157	2.598065	0.012788	0.765759	6.078359	0.765759	6.078359
地価	4.659682	0.623157	7.47754	2.64E-09	3.402966	5.916398	3.402966	5.916398

◆ ランダムフォレストによる結果とExcelによる重回帰分析結果をR²値で比較します



この分析では,ランダムフォレストに比べて,Excelでの分析の方がより精度が高い(より相関がある) 結果を示しています